

## 日本製鉄(株)から

# 県指定文化財「紙本両鉄鉾山御山内並高炉之図」が寄贈されました

11月28日に行われた「橋野鉄鉾山世界遺産登録5周年記念シンポジウム」で、日本製鉄(株)が所蔵する文化財が市に寄贈されました。

日本製鉄(株)東日本製鉄所の天津芳久副所長（釜石地区代表）から野田市長へ目録が贈呈され、市から天津副所長に感謝状を贈呈しました。

お知らせ	「紙本両鉄鉾山御山内並高炉之図」を公開します		
	場 所	鉄の歴史館	
	日 時	1月8日(金)～9日(土) 9時～17時 (最終入館16時)	
	入館料	小中学生 150円 高校生 300円 一般 500円	
	※1月9日 9時～12時は名誉館長講演会を開催するため入場無料		



『紙本両鉄鉾山御山内並高炉之図』は和紙にまとめて記載された絵図(絵巻で、製鉄の業務報告として盛岡藩お抱えの絵師が描いたと推測されます。

『南部家絵巻』とも呼ばれ、かつては盛岡藩主南部家が所蔵し、後に富士製鉄(株)に寄贈されました。昭和49(1974)年に県指定文化財となりました。

内容は、大橋高炉と橋野高炉、各採掘場の位置や設備配置図、個々の高炉やフイゴ、水車などの装置の設計図が詳細に描かれた「設備編」と、採掘から製鉄に至る工程が詳細に描写された「作業編」の2巻で構成されています。寸法は【設備編】幅27cm 長さ869cm 重量2368g 19図(大橋3、橋野16図)収録【作業編】幅26cm 長さ606cm 重量1708g 10図収録となっています。

絵巻には大橋高炉二番・三番高炉が増設されていることから、文久元(1861)年以降の作であり、さらに絵巻に収録されている「橋野鉄鉾山惣御山内略図」には「仮高炉当時不用」とありますが、この高炉は橋野に最初に建てられた実験高炉で元治元(1864)年に大改修の末、三番高炉となります。

そのため、文久元年、元治元年の春の情景を描いたものと推察されます。



橋野二番高炉湯口前之図

橋野二番高炉ヲ分開シテ湯口ノ方ヨリ見ルノ図

高炉は内側より埴瓦・身瓦(耐火れんが)、石灰、甘石、たたき石、胡麻石(花崗岩)と6重構造となっています。二番高炉は花崗岩が上まで積まれるため小さめの石材となっています。



湯口前働之図

出鉄のシーンです。5人の男が棒で突いて炉に穴を開け、その穴から溶解した鉄が高炉手前の砂場にたまります。高炉前の3人は熱除けの蓆を押さえ、手前の男は鉄に炭を振り掛けています。



橋野鉄鉾山惣御山内略図

橋野鉄鉾山高炉場の鳥瞰図です。二又沢の東側段丘上に立地し、沢から水路を引き、水路沿いに右(南)から左(北)に一番、二番高炉、仮高炉(当時不用)があります。中央部の大門の右には鍛冶長屋と大工長屋、長屋、種砕水車場が、奥には御日払所、山神社があります。発掘調査では本図の配置とほぼ同じように遺構が検出されています。



鉄鉾山元山金堀働之図

3人の男が鉄槌や鉄楔で露出した鉄鉾石を採掘しています。採掘場は高炉場の南約3kmにあり、鉄鉾石の層が所々露出した箇所が見られ、採掘された箇所は窪地となっています。

## 釜石の歴史もやま話

釜石の鉄学編 番外編

問い合わせ  
市世界遺産課 ☎22-8846

釜石市長 野田武則

新年あけましておめでとうございます。市民の皆さんにおかれましては、それぞれの思いを胸に新春を迎えられたことと心よりお祝い申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が暮らしや生活に大きな不安を与えた一年でした。終息を願いながら、引き続き感染予防・地域経済への対策を行ってまいります。市民の皆様にはあらためて「新しい生活様式」の実践と冷静な対応をお願いいたします。

一方、ラグビーワールドカップ1周年メモリアルイベントの開催や橋野鉄鉾山の世界遺産登録5周年、釜石港のポートオブザイヤー2019選出など明るい出来事もありました。ご理解・ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

さて、本年3月、東日本大震災から10年を迎えます。市は震災後「住まいの再建」「なりわいの再生」「基盤整備」を復興の柱と位置付けてきました。発災から10年となる令和2年度中の完遂を目指してまいりましたが、一部、住宅再建と基盤整備に遅れが出る見込みです。令和3年度中にこれらを完了できるよう、さらに気を引き締めて取り組んでまいります。

また、被災された皆様の「心の復興」は10年という区切りで終わるものではありません。継続すべきものはこれからも取り組み、最後のお一人まで寄り添ってまいります。

さらに、近年激甚化する自然災害への備えが必要です。令和元年台風第19号では尊い人命を失うなど、甚大な被害がありました。また、内閣府が公表した「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル」では従来予想よりも浸水区域が広がる可能性も示唆されています。過去の教訓、また最新の知見を生かし、人命・財産を守る対策を行ってまいります。

本年は屋形遺跡(唐丹町)が国史跡に指定される見込みであることや、オリンピック・パラリンピック「復興『ありがとう』ホストタウン」の実施、防災推進国民大会2021の開催など、明るい取り組みも多く予定されています。令和3年度にスタートする第六次釜石市総合計画では、これからますます厳しさをまます環境の中でも地域の強み・魅力を生かし「トライし続ける不屈のまち」をスローガンに「釜石の発展」と「一人ひとりの幸せ」の実現に向けて全市民参加で取り組んでまいります。

結びに、これまで復興にご支援いただいた皆様への感謝を申し上げるとともに、本年が皆様にとって良い一年となるようご祈念し、年頭のあいさついたします。

「トライし続ける不屈のまち」を目指して

市長年頭あいさつ